



タック

TACの家庭菜園教室



TAC（タック＝営農経済渉外）が家庭菜園を行う際のポイントや注意点などをじっくり分かりやすく解説いたします！

夏のナスを元気に育てて、秋までおいしく

ナスは夏野菜の代表格。特に7月は果実がぐんぐん育ち、収穫の最盛期を迎えます。一方で、高温や乾燥、病害虫などの影響を受けやすい時期でもあります。そこで今回は、露地栽培とプランター栽培の両方に対応した、7月の栽培管理のポイントをご紹介します。

①.こまめな水やりで乾燥対策を

暑さが厳しくなるこの時期、ナスは非常に多くの水を必要とします。土が乾いてしまうと実の肥大が悪くなり、収穫量や品質にも影響が出ます。特にプランター栽培では土が乾きやすいため、朝と夕方の2回、水やりを行うのが理想的です。露地栽培でも、土の表面が白く乾いていたら、たっぷりと水を与えましょう。敷きわらを施すことで、地面からの乾燥を防ぐ効果もあります。

②.風通しをよくして病気を予防

ナスは葉が茂ると風通しが悪くなり、病気が発生しやすくなります。わき芽は早めに摘み取り、枝葉が混み合わないように整枝を行いましょう。不要な葉や下葉を取り除くことも効果的です。プランター栽培では特に葉が密集しやすいため、定期的な剪定で株の状態を整えましょう。

③. 肥料切れに注意して追肥を

果実の生長が盛んな7月は、株が多くの栄養を必要とします。2週間に1回を目安に追肥を行いましょう。露地では化成肥料や堆肥、プランターでは液体肥料を週1回与えると効率的です。肥料が不足すると実が小さくなったり、色が悪くなったりするため、注意が必要です。

④. 早めの収穫で株を元気に

実を長く株につけておくと、株が疲れてしまいます。ナスは花が咲いてから 15～20 日ほどで収穫適期を迎えます。ツヤがあり、はりのあるうちに収穫することで、株の負担を軽減し、長く収穫を楽しむことができます。

⑤. 更新剪定で秋ナスの準備を

7 月下旬から 8 月上旬にかけて、株が疲れてきたら「更新剪定（こうしんせんてい）」を行うと再び元気な枝が伸び、秋にもおいしいナスが収穫できます。主枝や側枝を半分ほど切り戻し、追肥と水やりをしっかり行いましょう。プランター栽培でも同様の管理が可能ですが、枝数を少なめにして株の負担を減らすのがポイントです。

⑥. 病害虫の早期発見・防除を

高温多湿になると、うどんこ病や灰色かび病、アブラムシやハダニなどの害虫が発生しやすくなります。週に 1～2 回は葉の裏をチェックし、異常があれば早めに対処しましょう。家庭菜園向けの農薬も活用できますが、使用時はラベルの使用方法をよく読み、安全に配慮してください。

秋まで元気な株を維持するためにも、今月の手入れがとても大切です。適切な管理で、7 月のナス栽培をさらに充実させ、おいしいナスを食べてパワーチャージしましょう！



お申込み・お問い合わせ

JA足利 営農振興課 ☎0284-22-4433(担当:TAC) 経済課 ☎0284-70-3071
または 北支店(経済)☎0284-43-8880 西支店(経済)☎0284-65-1139